

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成25年度 第2回薬学教育FD/ICT活用研究委員会 議事概要

I. 日時：平成26年2月19日（水） 13:30～15:00

場所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者：松山委員長、黒澤副委員長、大嶋委員、大谷委員、徳山委員、梶原アドバイザー
齊藤委員（Skype参加）、松野委員（議事録） （事務局 井端、平田）

III. 検討事項

1. 教育改善モデルの実現に向けた課題について

前回の委員会で、教育改善モデルの修正は必要がないとの結論が得られたため、今回は今後薬学委員会をどのように進めていくか、その方向性を検討することとなった。

検討課題について各委員による意見交換を行った結果、既に委員会としてモデルを議論する段階は過ぎているため、次年度は作成した教育改善モデルを題材にして、現場レベルで話し合いを行うための土俵を作成する必要があるとの認識で一致した。また、そのための情報公開および交換のためのワークショップを開催することとなった。

今回は、主にワークショップで扱うテーマを中心に議論し、当初は教育改善モデルに記載した他職種連携をテーマにするとの考えがあったが、

- ・実際に他職種連携が可能な大学は、医療系の学部を揃えた一部の大学に限られている。
- ・単科大学ごとの大学連携はなかなか進んだ取り組み例がない。

などの状況があり、情報を共有するテーマになりにくいこと、また、PBLなどのテーマは既に浸透している話題であり、ワークショップでとりあげるテーマでないとの意見が委員から挙げられた。

その中で、事務局から紹介されたFuture Skills Project (FSP)研究会の活動（安西祐一郎慶應義塾大学学事顧問・名誉教授を座長とした、5大学6企業連携による取り組み）が注目された。

（シンポジウム http://www.benesse.co.jp/univ/event2013_fsp/program/）

本研究会のプロジェクトは、社会に出てから必要となる能力を企業から提示し、学生が主体的に取り組むことによって、社会に必要な能力や厳しさを理解し、その後の大学生活における主体的な学びの定着を促すというものである。近年の大学教育では、PNPサイクルなどで学生を「褒めて伸ばす」教育が良いとされており、逆に企業側から世間の厳しさを教えてもらうこと（以前の大学にはあった内容）は重要であるとの認識を得た。

上記の議論を踏まえ、来年度に予定するワークショップでは、FSP研究会の活動を基調講演として、その後に参加者に実際にFSPでの課題に取り組んでもらうことを案として確認した。

なお、FSP研究会には青山学院大学、上智大学、東京理科大学、明治大学、立教大学が参加しており、東京薬科大学生命科学科でも25年より1年時必修科目として開講されている。

（<http://pathos.ls.toyaku.ac.jp/applife/産学協同PBL講座/>）

以上のことから、東京薬科大学にも事例報告を打診することも案として検討された。

2. 今後の研究の進め方について

1. での議論をふまえ、平成26年度は6月および9月（または10月）頃に2回委員会を開催し、27年2月に開催を予定するワークショップに向けた準備・打ち合わせを行うこととなり、次回委員会までに各委員がFSP研究会の活動内容等をWebで確認した上で、候補者選定など具体的な検討を始めることにした。

以上